（廿九日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五八四番

「夜明け前」の印象

城山　高月學人

可なり以前から豫告だけ聞かされてゐたが、島崎藤村氏が愈々沈默を破つて久し振りに長篇「夜明け前」を「中央公論」四月號から掲げはじめた。發表以前から豫告して置くといふあたりにも何か藤村氏らしい一種の趣きを感じたが、兎に角氏の作品といふと何か期待を感ずるのは氏の嚴正な重厚な創作的態度が自然に然らしめるものに違ひない。氏は私の家から程遠くないところに住んでゐられて、まだ面識はないが時々その姿を路上や車内などでお見かけすることがある。いつも如何にも謹嚴寡默らしくちりつと一つの構へをもつてゐるやうな様子でゐられるが、それが同時に氏の創作的態度にも感じられる。老大家といはれる人は幾人かあるが氏は文壇的な雰圍氣などから超越して一寸孤高の聖者といつたやうな感じで、俗流の圏外に立ち常に藝術的精進へ心を潛めてゐるやうに思はれる。結局、さういふ藝術家的な至純さが、ある間隔をおいて發表される氏の作品に對して自然に一種の期待を唆るものと思はれる。

今度の「夜明け前」はまだ本筋に入らない序の章でさへ、ほどに紙數のあるものでもない。本筋は恐らく現代を背景としたものであらうが、この序の章は天保、安政の頃、黒船渡來の聲に騷ぎ立つてゐる德川の末期を背景とした木曾街道のある村落の狀景がその場面にとらへられてゐる。例によつてスケールの大きい重厚な筆致でしづ〳〵とあの木曾川に浴つた木曾街道の風景を包むやうに措寫してある。特に鋭いとか特に珍貴なとかいふ字句などはどこにも見られないが、一種の底力のある質實な筆致が單純な平面描寫ではなしに事物の眞へ向つてぢり〳〵迫つて行く。かういふ味は他の作家には見られない、藤村氏獨特のものである。何しろ序の章でさういふ狀景が描かれてゐるといふに過ぎないから、これ以上に批評をするところまで至つてゐないが此頃の變な才氣や筆先の技巧などを弄してゐる所謂新時代的な作品の間にかうした作品を讀むのは悪い氣持はしない。少くとも筆者の創造的態度の嚴正さだけでも頭の下るやうな思ひがする。

さき頃「新公論」に藤村氏の子息翁助氏が「父について」といふ文章を書いてゐたのを讀んだ。翁助氏の眼は却々尋常一樣の子としての眼識ではなくして父の人格を鋭く覘ひ得てゐるのに感心された。それを讀むと吾々が藤村氏の人格に對して感じてゐる靡柄が一層しつくりとうなづけるか、最近のことはあまり知らないけれども少くとも何年か以前まで藤村氏は「新生」等によつて感じられるやうに常に一種のポーズを構へてゐて、容易に正直になり切れない茂居氣なども多分にあるやうな人でまつたらしい。「新生」の中で主人公が皮相なセンチメンタリズムで涙をぼろ〳〵流すあたりに來ると私は一種の興ざめと反感とを覺わるのが常だつたが翁助氏の文章にはそのあたりをもよく掴んで「新生」を通して見た藤村氏の人格に感じてゐたものをはつきりさせられる。

讀者欄

鶴の一ト聲

東山人

鶴は鳥界の王者である。その氣品の如何に清高にして群を抽んづることよ！。鳳凰は靈鳥と稱せらるゝも元來理想にして實在ではない。實在鳥群の間に於ては鶴は確に准靈鳥たるの資格がある。句來天子を鳳凰に譬へ皇太子を鶴に擬し、鶴宮と云ひ鶴駕と稱す、以てその眞價値を知るべしである。

鶴は肉食家だ。長脚水を渉り、長嘴能く活魚を捕へ[illegible]す。然し彼は非常に[illegible]ない。この節食が彼の健康を維持し能く千歳の壽を保つと稱せらる。近頃菜食論が頗る盛んであるが、菜食必ずしも萬能でない我輩はすべて偏食と多食とを排し精食と節食とを主張する。是れ我輩の食養哲學である。但し之は餘談に過ぎない。

諺に鶴の一聲雀の千聲と云ふ。之と稍似たるものに獅々王一度嘯けば百獸忽ち慴伏する云ふがある。彼等は其の豪壯なる威嚴に壓倒されたる勢ひを示し、前者は寧ろその氣品と德望に悅服するが如き趣きを現はして居る。多少の差はあるが孰れにしても爾る小氣味[illegible]々混亂の極に達したる時、若し威望兼備の大人物が出て一たび口を開けば忽ち靜謐に歸すとせよ。如何に痛快のことではあるまい乎。明治維新の際、德川の政權返上、伏見鳥羽の開戰、若くは廢藩置縣の斷行等、すべて重大問題は西郷の一言に依つて廟議立所に決したと傳へられる。處がそんな偉人は今の日本には一人もない。

現代世界を見渡しても慥くの如き偉人は唯伊國のムッソリーニあるのみだ。彼が執政以來約九年、伊國の國情は全然一變して正に隔世の觀がある。彼が始めて出づるや、世界は驚異の眼を以て迎へ、彼を目するに現代錯誤の一小反動政治家に過ぎずとなし、冷嘲漫罵至らざるなく彼の壽命も二三年が關の山だと考へた。日本の新聞屋共も大抵皆その明盲の仲間であつた。

所が彼は此等の批難を齒牙にも掛けず、彼獨特の精力絶倫を以て他に範を示し着々としてその所信を斷行した。最近にては彼が理想通りの議院組織を案出し、今度の總選擧に於て見事に擧國一黨主義を完成した彼の仕事は愈々之からだ。

然し彼の成功は決して偶然ではない。彼は平素我那翁に私淑しその燃ゆるが如き信念と言へば必ず行ふの精力とを以て終始一貫して居る。日本の私製ムッソリーニも此點に着眼せざる限り結局虎を畫いて猫に過ぎないものと成るであらう

童謡『月』

植田　渡邊芳勝

お山のかげからにつこりと
丸い顏した月さんが
にこ〳〵しながら顏出した
お山で兎はぴよん〳〵と
長いた耳をぴんと立て
ぴよん〳〵〳〵とはねるだらう
ほんとに兎は月と仲よしだ

（ひばり）

青い畠の麥の上で
ぴいちこひばりがないてゐた
春來た〳〵とないてゐた

明日の吉凶

舊暦二月二十日　新暦三月三十日

▲一白　小成に安んじ易くして持續心に乏しき日なり▲二黑　文書は餘程注意せざれば憂ひを殘すことあり▲三碧　小利に眩みて大勢を誤ることあり出納注意▲四祿　基礎が固め捗らぬども粘り強くするが吉▲五黄　患はず知らず無理心の生ずる日注意すべし▲六白　正しき道に依れば何事も通達する强運の日▲七赤　商は目上に謀りし違算なき様注意すべし▲八白　平和を祈れば無事なれども進展は望めぬ日▲九紫　待ちに待ちたる甘露の日利となるべき吉日

講談　幕末艷怨亂記（195）

渡邊默禪作　宮野歌春畫

川を隔てゝ睡げに唸る淺草寺の鐘は早や九つを數へられた。月は朧ろ、所も知らずほのめく花の小闇い池のみぎはに子を孕む鯉の跳ね上る音がする。素跣になつて忙しく飛石の間を駈け拔けて勘太郎の所在を探し廻ると、隅の木蔭に何やら眞黒な影が見れた。

近寄つて見ると果して勘太郎であつた。

「あなたッ」とこけるやうにその膝に取着いて

「か、か、勘忍してくださいッ、わ、私申譯がありません」と泣出した

昏々として夢心地でゐた勘太郎は此の聲に驚いて、ひよいと首をあげて

「おう、お君かッ、どうしたッ」とばかり或は幻覺でないかと怪しむかのやうよろ〳〵と姿をまもる。

「たや、未だ縛られてゐるではありませんか、まア何といふ情ないことでせう」とお君はたろ〳〵しつゝ後へ廻つていましめを解く間もしきりに四邊を氣遣つた。

頓てひらりと繩が解けるとお君は取着くやうにしてその手首をやはり〳〵と揉んでやりながら

「あなた嘸辛かつたことでせうね、よく我慢してた來んなすつた、私、私、うく〳〵く、口惜しくつて彼奴のノドブイへ喰ひついてやりたいやうな氣が爲ましたけれども、此處が大事な所だと思つたもんですからぢつと蟲を殺して辛抱してゐたその苦しさは、どんなでしたらう、今ねやつと騙して酒で殺してこつそり脱殻けて來たんですから、さア、此の間隙に早く逃げて了ひます、さ、準備をしてください」とはや言に云ふ。

「お君、實に有難い」と片手で拜んで

「お前には種々話さなければならない事があるが……」

「ねッ、そんな話はあとでゆつくりなさいましよ、さ、急いで」

「よしッ」と勘太郎は立上つたが、足はひよろ〳〵して落着がなかつた。

直側が板塀で一重の外は田圃である。ぐう〳〵と鳴く初蛙、水がこと〳〵とさゝらいでゐる、お君は褄を縮直した。その体を勘太郎が抱上げて塀に捉まらせ横木の上へ片足を踏かけさせた途端、突然に池の方から

「やい、待ちやアがれッ」

と鋭い聲がかゝつた其の聲は富藏である。

山越する時に、不意にくさむらから飛出して吼え立てる狼——二人は恰どそんな感覺がした。どきりとしてふりかへると、池の土橋を渡つて富藏は一さんに驅けて來る。距離わづかに五六間、危急は數秒の後に迫つてゐる。

「ソレ、早くッ！」

勘太郎は叫んだ。紅の蹴出白い足、宙に浮いたと見る間にどしんと音してお君の姿は塀外に消えた。

「奴ッ、待てッ！」

追ひ縋る富藏の臂が裾に飛んで來たのを塀の横木に踏みかけた右の足で腮の邊を丁と蹴つた、蹴られてひよろ〳〵と後へ蹌ける隙にすばやく塀を乘踰えて、勘太郎も同じく外へ跳下りた落る機會に膝を右に打つけて痛さに跪いてゐるお君を引立て畔を斜めに渡つて纖い田甫路へ出ると、塀越しに富藏の怒鳴立てる聲がした。それが何と言つたのか氣の上釣つてゐる際であるので二人の耳には聽取れなかつた。

春向が澤山入荷いたしました
ナフトール尺着
着尺モスリン
セル
ネル
帶皮
其の他色々
どうぞ御用命を願ます
龜田屋　電話五七

吉田眼科醫院

健康禮讃
蜂ブドー酒
人生の最大な歡喜は一家揃つて健康なることであります　美はしき皮膚の精彩と　魅力ある健康と美とを創造する蜂ブドー酒の食前常用は●人間生活をヨリ光明へ　ヨリ幸福へと導く唯一の捷徑であります……
「蜂印香竄葡萄酒」といふ名稱を皆様のお褒めにより且つは時勢の推移に鑑み今後「蜂ブドー酒」と改めます　どうぞ引續き御愛飲を願ひます

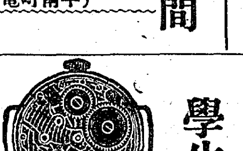
合資會社　近藤利兵衛商店　東京　大阪

夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　專門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院（平南町電話一〇七番）

貸切自動車の御用命は　昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い　平驛前　昭和タクシー
電話は三四三番　サシミ

良い物、揃つた物
ヒナ人形陳列會
二丁目の　福田屋ふとん店

學生用腕時計元價提供
時計が無いので學校が遲れたなどは、誠に不成績の原因となります　僅か乍然も特價で求られる此時期に是非御買求を願ます



◆特價保險付品
男用十形　女用九形　瑞西製
クローム
十五石入腕時計
一金六圓八十錢均一
平三　大谷時計病院　電話一九番

毛糸
防寒用には丈夫で暖い　英國製毛糸
一オンス　十九錢　二十五錢
手藝材料　ハシモトヤ糸店　平町田町

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

不純な動機に出發した 改革派內部の魂膽
過激な破壞主義の吉田校長
大谷氏擁護の連判帳

平信用組合役員選擧に當り然かも創立以來の功勞者にして十四年勤續の組合長大谷久藏氏を葬り去るべく凡ゆる陰謀術數を施し遂ひに大谷氏を新役員より除き去つた事は餘りに非道德的であると

多數組合員の激昂する處となり二十七日來寄り〳〵協議中の旨本紙既報したが改革派と稱する一部少數の組合員が今回此の過激極まる破壞的に出でた事は或る野心家の傀儡により改革の美辭に名を籍りそも〳〵實は極めて其の動機不純なるものがある即ち改革派の急先鋒たる某氏は役員選擧前日たる二十三日大谷組合長に對し金圓の借り入れを申込み若し應ずれば改革論の鋭鋒を收めて大谷氏擁護の爲め犬馬の勞に復すべき旨を手紙を以て大谷氏に申送りたるも拒絕された爲め益々改革論を高唱し新役員に任じたる等改革派中多數は大谷氏に對する私憤より出發したる其の間の事情察するに難からざるものあり殊に平商業學校長吉田利吉氏の如きは改革派の急進論者なりと自稱し大谷氏を葬る目的の前に手段を選ばず陰謀に參劃したる學賢あり、假りに其の動機に不純なるものなしとするも斯かる過般な破壞の急進をなすが如きは敎育者の立場を顧みざる盲動として二十六日開會の町會席上荻原町議よりの提議によつて論難された如く今回改革派の採れる行動は先蹤功勞者に對する謝恩を否定した擧に

德儀に反する行動なりとし多數組合員は飽くまで大谷氏擁護の爲め今二十八日より各町內を手分けして組合員を歷訪し若し飽くまで主張が通らざる場合は組合を解散する方針で活動中で成り行き極めて重大視されてゐる

二卵の罪 干城の將
大谷氏の爲めに 組合員の談

右に關し有力なる組合員多數の意見を綜合すると平信用組合は大谷氏が渾心の努力を捧げて創立し過去十四年苦心を拂つて今日に至つたもので愚實は大谷信用組合と稱するも安當である、假りに大谷氏の組合經營方法に多少の缺陷ありとするも今俄かに大谷氏の爲め致命的改革を加へる必要は認めない、況んや氏の組合に對する功勞は些さかの缺點を償ふて餘りあり僅かに二卵の罪を以て千城の將を捨てるに忍びないから飽くまで大谷氏の最後を飾つてやりたいものである」と云ふにあるが如くである

平町の臺所覗き
長らくの旱天續きで 奥さん連の恐慌

長らくの旱魃續きから野菜物類は空前の不作に見せ一月以來一體に高値を告げてゐたが昨今益々相場は騰る一方で物によつては昨年より三倍から高い物がある、先づ臺所の恐慌時代といふところ、ところで竹の子や莢豌豆胡瓜等のはしりが漸く出て來たが是も例によつて高い竹の子一貫匁二圓位、莢豌豆同六圓位、胡瓜小一本四錢位、目下各家庭の臺所で重寶がられてゐる三ツ葉も千住の本場物で一束廿五錢、下總物の場違ひ物で同十錢から十五錢、小松菜一束六錢から十錢、京菜同六錢から十三錢、うど一貫匁六十錢から七十錢、大根一本七錢から十二錢、牛蒡一貫匁四十五錢、ニンジン一束（廿五本）三十錢から一圓で何れも昨年より倍以上の高値となつてゐる。

かういふ中にも三倍以上と云ふべら棒な高値になつたのはねぎ類で、一番家庭で使はれる根付ねぎは一貫匁六十錢から八十錢、高等料理用の根切ねぎは百七十錢から一圓で、昨年の今頃の根付廿錢、根切三十錢といふ相場は昔ばなしのやう、其他玉ねぎ一貫匁七十錢位キャベツは一貫匁七十錢の高値で、一般家庭用にはならぬ、しかし來月から近縣物が出廻つて來るので一貫匁十五錢位にがた落ちするだらうとの事だ

以上のやうに一體の高値であるのに、たゞ一つ昨年通りの値段を持續してゐるのは芋類丈で是はジャガ芋一貫目廿五錢、里芋同廿五錢から三十錢サツマ芋同廿五錢と云ふ處、何しろひでり續きでた話にならない程の不作で、品の出廻りが惡く、其の爲めに高いのですから今の處一寸安くなる見込みもないやうです、先づ一雨降つて來たら幾分かづゝ相場も下向きになつて來ませう、とは靑物市場の話

漁業資金
申込金十萬圓

本縣各濱は昨夏の大暴風被害に打續いての不漁に漁業者間の金融は極度に逼迫し日用品の購入にも事欠くの悲慘なる狀態に陷り救濟の要を認めるので縣では過般來低資融通に關し主務省と交涉した結果大藏省預金部から農銀並に勸銀を通じ融資されることになりこれが希望を取纏め中のところ二十七日までに五萬三千圓（磯部三千圓、四倉二萬圓江名二萬圓、請戶一萬圓）の申込みあり近日中に豊間その他からも希望ある筈で總額は十萬圓に達するものと見られる

磐中、磐女の入學者發表
三十一日午後

磐中、女の入學試驗は今二十九日の体格檢査に一齊終りを告げ一段落となつたが磐中では体格檢査後各自千差萬別の常識口問口答を行つた合格發表は兩校共三十一日午後からである

平町後の推薦で 板挾みの町長
佐々木、吉田が書記昇格 問題は愈々本筋

平町助役佐藤要四郎氏は來る四月五日を以て任期滿了となるが、此れに前後して伏見町長は町會を召集し自己意中の人物を選定推薦するのであるが、伏見町長の意中の後任は誰か、白羽の矢は意外の方面にむけられてゐるのではないだらうかと言はれてゐる、後任助役の下馬評に上る人々には現町會議員の佐々木龍若、同吉田五平の兩氏を始め現助役佐藤氏の重任、役場書記の花澤文庫・酒井寅之助兩氏等がある

此の中佐々木町議は過般の町長の爲めに應援努力したと云ふ處から、又吉田町議も同じく伏見町長再選の片棒を昇いだ民政派として何れも押賓女房の格で盛んに色目をつかつてゐるが佐々木氏を押せば當然民政派を正面の敵としなければならず、吉田氏を迎へる事も伏見町長としてはより以上に忍び得られぬ處とあつて兩氏の妥協がうまく行けば兎に角そうでもない時には殆んど望みがない

次は佐藤現助役の重任は殆んど問題ではなく殘る處に花澤、酒井兩書記の昇任だが佐々木、吉田兩氏議派の猛烈な運動に煩まされてゐる伏見町長としては結局最も無難であり昇任說を選ぶのではないかと見られてゐる

平商業學校
入學許可者

平町商業學校の今年度入學試驗合格者は左の百十三名である（受驗番號順）

福宮久　芳賀三男　岡田正見、金澤正廣　安島賢治　田仲清　渡邊文夫　佐藤行雄　渡邊善彌　高木吉郎　諏訪次郎　佐藤慶三郎　鈴木正秀　酒井時寬　山田正直　本馬佐源太　佐藤忠吾　西鄕力男　川添利太　小野瀨重吉　荒川義雄　堀川一男　武子安男　增澤勇　麻原好重　新妻秀　佐々木健夫　池田錦之助　吉田貢　中川榮　猪狩敏　柚木秀雄　田部井幸男　大高大　大平一郎　佐々木道典　金成榮二　河野淸一　九頭見榮　白石一　五十嵐二郎男　小野正　渡邊祐助　三部幹夫　四家隆　榕石勇助　小山喜市郎　大友光夫　間宮喜久雄　大越山　大和田正雄　齋原重雄　江尻正　佐藤初德　稻葉元之　石川憲一郞　鈴木酉三　門馬利治　小濤幸一　植野榮　鈴木寬　比佐義雄　國井一二　渡邊一　鈴木重雄　馬上稔　高木善平　馬目淸　柏塲星雄　久保木茂福　長谷川武士　塚越說雄　佐藤繁雄　淸野昌雄　久野平四郎　大平富重　馬目貞二　大村邑司　富田二郎　加藤行之進　鈴木良吉　吉田昌雄　鈴木幹雄　石井德太　大谷行夫　吉田靜磨　小泉浩平　山田定　石山正夫　山家正　金田定男　都甲保敏　辻久次郎　中野武　小原修一　中川不二常　岩崎庄三　本田秋　荒忠二郎　齋藤武雄　佐藤致中　渡邊務　坂本泰藏　鈴木庄次　高野鐵雄　田山正雄　鈴木德重　鈴木滿義　木村武男　廣田良夫　佐藤武雄　關場修一郎　小林三男（以上一一三名）

國有林拂下げ 代金不拂
愈々最後の手段

平稅務署では國有地を拂下たが山間部民から一向代金が納まらず再三督促するが拂下した者は折角拂下ては見たものゝ金が出來ず拂下た土地を他に賣却して代金を納入せんとしても土地の買手がないため拂下て既に三年越になるものがあるので岡部署長自ら出馬し三坂上遠野村方面から膝詰談判の督促を開始したが今回同署長の督促でなほ納入しないものは最後の手段として賣買・契約を解除することになつた

株を土浦にとられ 石城の米が餘る
どうしても東京市場へ 送り出しの斡旋

穀物檢査所平支所管內石城郡下の昭和二年度の移出檢查米は二萬八千七百九十五俵等級檢査米は一萬六千九百三十二俵であるが郡內生產米の大半は消費され尙年々約十萬石の移入米をなしてゐたもので其のうち炭礦に消費されるもの約七萬四千石の多きに達してゐたが先年土浦町岡本儀兵衞氏が淺野系の常磐線一帶の炭礦と契約をなしたため同郡內の移出米は急激に減少し本年度の移出檢査は二萬五百餘俵となり約八千俵を激減したために各生產家は低落の憂目を見るに至つた關係上等級檢査を行はねばならぬ結果となり既に二萬俵を行つた有樣で約三千俵等級檢査は增加を示してゐるため同郡には炭礦關係を奪はれたにより中央市場に移出する計劃を立て目下市場調查中で漸く石城米も中央に搬出さるゝの機運に達した

夏井精農表彰

石城郡夏井村農會では來る四月一日午前十時から同村小學校に於て精農家表彰式を擧行すると

活氣付く 七濱
大敷網も準備

石城郡各濱は冬漁も終りになつてポツ〳〵夏漁即ち鰹漁の準備を始めたが各漁船の漁夫は夏漁、秋漁、冬漁毎に職替を行ひ新しい漁夫を雇入れるが慣例になつてゐるしかして冬から春にかけての漁期は五月職替へさなるので各船主は職替へに依る新準備を急いでゐるが昨年は相當の漁獲高を示しそれに昨年は低利資金の融通も受けたことゝて昨年の職替へ當時に比し今年は餘程樂であるぞ見られてゐるなほ大曳網は四月中旬から開始されるので石城郡各濱は漁獲準備に相當活氣を呈して來た

今度は小川鄕近く 列車顚覆を計る
面白半分に十七の少年 平署で罪狀自白

平驛を基點に磐越東線小川鄕驛附近上小川村大字上小川字後原地內鐵道線路に廿四日午後六時郡山發終列車が平驛に向つて同地內に差蒐るや突然傾斜振動し危く顚覆せんとしたので平驛か着するや直に平署に急報した平署では最近頻々として起る列車顚覆事件に鑑み嚴秘に附して犯人檢擧に全力を傾注してゐたが二十八日茨城縣生れ當時上小川村大字上小川字植ノ內原田菊雄（十七假名）を被疑者として引致取調べの結果右の犯行を自白したが列車顚覆の有樣を夢想して面白半分に線路に鍬を挾み長さ二間餘の杉丸太を積み附近の小石を數個並べて置いたものである

馬場林鳥を刺した 傷害犯人の公判
けふ平區公判廷で 證人の申請却下

平町白銀町カフェーステージに於て二月廿七日午後八時ごろ席を隣りして飲酒中些細の口論から喧嘩の果て刄渡し七寸の短刀を以て平町胡摩澤馬場林鳥の左眼上部と腹部に全治二ケ月を要する重傷を負はした東京市淺草區生れ住所不定八上錦三（二八）に係る傷害事件の第一回公判は二十八日午前九時より本支部に於て高橋判事、三笠檢事係り漆畑、門傳、增田ノ三辯護士列席の上開廷事實調べの後各辯護人より證人としてステージ女給佐藤トシ、梅畑ナホの二人喚問を申請したが却下され十一時閉廷次回は四月六日午前九時と決定した

▷▷▷▷乞食に還る▷
神經病の老女

平町尼子橋上より去る三月一日新川に投身自殺を企てた米澤市字北谷地澤小路生れ島田トミ（四七）は平署に保護され町役場に行路病人として移されてゐたがトミは一昨年より乞食をなし神經病に氣が狂ひ地方を浮浪してゐたもので二十八日元の乞食が好いと病舍を脫出した

植田署長入院

後藤

植田署長は發疹の爲め休養中の處二十八日午後一時平町磐城共濟病院に入院した

箕輪記念碑
芳名簿が紛失

石城郡箕輪組合村では大正十五年地すべりのため犧牲者を出したので同村では犧牲者のため記念碑建設を計劃しいよ〳〵この程竣工したが有志の芳名を記すに當り當時の各有志の芳名簿が見當らず記念碑に刻み込む事が出來ず大騷ぎをやつて居る今更工事を中止する譯も出來ず困り切つて居る

現地演習
來月平町附近で

石城郡內に於ける在鄕軍人將校現地戰術演習は來る四月十八九日の二日間平町を中心として擧行さるが指揮官として高羽參佐が來る筈である

產馬議員
來月選擧執行

石城郡第一區產馬組合會議員選擧は來月廿五日上遠野產馬事務所及田人村黑田支所に於て選擧を行ふ筈であるが町村會議員より名譽とし誇りとするものでその選擧運動も猛烈を極むるは當然にて選擧區は植田勿來一二町九ヶ村五名の議員を定員なるも、いづれも田人上遠野により選出さるゝもので期日切迫と共に暗中飛躍が試みられその話題の人々は左記であるが尙その他三四名ある

上遠野　蛭田安平　再）蛭田啓次郎

砂利無願採取
平監督所取締

石城郡地方の河川から監督官廳である內務省並に縣當局に願ひ出さず無願にし砂利の採取をなす者がおほいので縣の命令を受けた平土木監督所では各地に吏員を派し實地調査をなした結果郡南鮫川の五名を筆頭に違反者の數が實に三十四名に達し監督所當事者も驚いてゐる、これ等の違反者にたいしては採取量に割當て料金をとるが、今後は嚴重に取締違反者には正當の料金を徵收する外さらに罰金を課する方針であると

本日出立の際は雨中にも拘らず遠路御見送り被成下難有奉深謝候尙混雜中御尊名洩も有之候事と存じ乍略儀紙上を以て御禮申上候

參月廿七日

建築士　小出英
仝　さと

事務所　東京市下谷區御徒町三ノ八七　電話下谷　六一一
出張所　福島縣平町字田町
自宅　東京府下荏原郡東調布町　下沼部　三一二

ヒゲタ醬油　宮內省御用達　九升樽詰　ニリットル瓶詰
銚子醬油株式會社

特約店　平町田町　廣瀨支店　電話五四番

新築落成

耳、鼻、咽喉科　氣管食道科（專門）

平町南町（舊診療所向電一七〇番）

大和田醫院

大和田郡司

自炊の便あり

スッポン飴　一圓　三圓
スッポン酒　二圓
スッポンヘモクロピン錠　三圓

平町五丁目角

山野邊藥局